

平成28年度天皇杯受賞者受賞理由概要  
水産部門

カキ養殖業を未来につなげるために

○氏名又は名称 唐桑町浅海漁業協議会青年部（代表 小野寺 芳浩）

○所在地 宮城県気仙沼市

○出品財 技術・ほ場（多面的機能・環境保全）

○受賞理由

・地域の概要

気仙沼市唐桑町は宮城県の最北東端にあり、三方を海に臨む細長い半島の町である。三陸沖漁場をはじめとした自然の好漁場を擁し、遠洋漁業先駆けの地としても知られているほか、静穏な入り江を活用したカキやホタテの養殖が盛んで、漁業者による植林運動である「森は海の恋人運動」はこの地を発祥の地としている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

唐桑町浅海漁業協議会青年部では、地域の子供たちの海離れが進む中、基幹産業であるカキ養殖やふるさとのすばらしさを認識し、理解と知識を深めることが重要と考え、「総合的な学習の時間」を活用したカキ養殖に関する学習支援事業を開始した。以降、小学校との連携のもと、震災の苦難を乗り越え10年間にわたって活動を継続し、その蓄積を基に一連の養殖作業行程を学ぶ総合的な体験型の学習プログラムを構築した。

・受賞者の特色

(1) カキの養殖サイクルに基づく学習期間の設定

唐桑のカキ養殖の生産サイクルである3年間にあわせて、4年生から6年生の3学年にわたる学習期間を設定し、各学年の成長にあわせた作業工程と現場での安全確保に配慮し、学習効果の最大化が図れるプログラムとなっている。

(2) 生産から販売まで技術的・体系的にカキ養殖業を学ぶ

学習プログラムでは、漁場の一部を活用した小学校専用の養殖いかだを設置することによりカキ養殖の技術実態を学べるとともに、生産から販売までを体系的に学ぶことができる。生産現場から販売して収入を得るところまで体験することで、カキ養殖業を生業として捉えることができる。

(3) 継続性の確保

青年部のメンバーに現場における作業体験の運営ノウハウが蓄積されていることから、質の高い取組を継続して行うことができる。

・普及性と今後の発展方向

共同開発者である唐桑小学校が一連の体験学習を発表し、ユネスコESD（持続可能な開発のための教育）優良実践事例集に採択されるなど世界的にも高い評価を受けており、学習・教育の模範となる取組として活用されることが期待される。

また、この取組が地域活動へと発展することによって、将来的な漁業後継者の育成や漁業への理解者の創出といった効果も期待できる。